



■Tackle Guide
20メートル足らずの浅場のマダイだが、竿は一
般的な3メートル前後の胴調子マダイ専用竿を使
う。八景沖も久里浜沖も同じ竿で狙う人が多い。た
だし八景沖の場合、10メートルも巻けばピンが上
がってくるため、手巻きリールを使う人が目立つ。
近年は中型の手巻きリールを使う釣りが減った
ので、押し入れて眠っている手巻きリールがあれば、この釣りで日の目を見せてあげるの
だろうか。



▲浅場なのでコマセダイ入門にも最適

エサ取りが不思議なほどな
くなった。続いてミヨシに、そ
してトモにアタリがきた。鋭
く竿先を絞り込む引きはマ
ダイに間違いなさだ。しか
し、両方ともハリが外れてバ
レしてしまう。
潮の状況は、下げ潮がトロ
トロと流れている。干潮は10
時30分、それまでが食いの立

つチャンスだろう。頑張つて
コマセを打ち返すが、私には
アジが釣れるだけで、時間が
過ぎていく。
釣り人のサポートをしなが
ら竿を出していた楓くんにも
アタリがきた。竿が大きく引
き込まれ、糸が前に流れてい
る。青物のような横走りだが、
これが1.8キロのマダイだった。
浅場なのでマダイの引きは
強烈だし、なかなか弱らない
この浅い水深で3キロ、4キ
ロの良型が掛かったら、超ス

▼仲乗りの楓くんの竿が曲がった



▼1.8キロのまざまざサイズ



リリングな釣りになるに違
ない。
当日最大は2.5キロ
船中ほとんどの人がマダイ
の顔を見たところで10時を回
り、潮が緩くなってきた。マ
ダイは潮の流れに敏感だ、潮
が止まるとアタリもパツタリ
と止まった。代わりにクロダ
イがポツポツと食ってくるよ
うになり、たまにイナダ、ア
ジも顔を見せる。
太田船長は場所を移動しな
がら別の反応を探した。北上
して富岡沖から鳥浜沖、南下
して小柴沖と動いたが、いず
れも水深は18〜20メートルの
浅場である。どこポイント
でもマダイの型は出たので、
八景沖には広くマダイが回遊
しているようだ。

昼を過ぎたころ、上げ潮が
利き出してきた。ここでミヨ
シの竿が大きく曲がった。釣
り人は強い引きに耐えている
が、竿が曲がりっぱなしでな
かなか魚が浮いてこない。
周りが注目する中、ビシを
手にしてハリスをたぐり始め
ると、ユラリと海面に浮いた
のは本日最大2.5キロのマダイ
だった。
型を見ているのは、私を
含めて2名のみ。なんとか一
枚でも釣りたいと気合を入れ
てコマセをまくが、私の竿が
海面に突き刺さることなく沖
揚がり時間を迎えた。

浅場ならではのシャープな
マダイの引きを味わいたかつ
たところだが残念、いつかり
ベンジしたい。本日の釣果は
0.4〜2.5キロのマダイが一人0
〜4枚だった。
八景沖20メートルダチ前後



▲この日のトップは4枚

●船宿information
東京湾奥金沢八景
太田屋
☎045-782-4657
(詳細は巻末の情報欄参照)
▶料金=マダイ乗合一人1万1000円
(エサ、コマセ、氷付き) 女性、子供割引あり
▶備考=予約乗合、7時15分出船。
別館はルアー・タチウオ、ライトアジハ



の浅場を回遊しているマダイ
も、水温の低下につれて40
50メートルの水深へと移動し
ていく。今号発売のころは浅
場シーズンの終わりが、か
あるいは久里浜沖狙いに切り
替わっているかもしれない。
久里浜沖だと水深50メー
トル前後になるが、こちらを狙
うときはハリスが8メートル
になる。仕掛けを事前に作る
人は、予約時にハリスの長さ
を確認するのがよいだろう。



▲八景沖のコマセダイは今がピーク

う八景沖だろう。
ひと昔前までは、東京湾の
コマセダイといえば久里浜沖
以南と決まっていたが、数年
前から八景沖の浅
場に良型のマダイ
が回遊してくるよ
うになり、それを
横浜界隈の船宿が
狙うようになった。
金沢八景の太田
屋は周年マダイ船
を出船しているが、
今年は9月から浅
場でマダイが食
出したそう、以
降は浅場を中心
に狙っている。
浅場といっても
型はよく、1キロ
前後が中心でそれ
に2キロ台が交
じる。取材前日は4.2
キロの良型も顔
を出していた。

浅場のポイント
朝の船上は、仲乗りの佐藤
楓くんがコマセや氷を配つた
り、ビギナーへ釣り方のアド
バイスをしたりとまめに動き
回っている。
彼は船長見習い中で、仲乗
りをやりながら操船、釣り方
の勉強中とのことだ。
出船前に仕掛けを聞いてみ
ると、ハリスは6メートルで、
あまり長くすると食いが悪く
なるという。
「テーバー仕掛けやウエイト
スイベルは必要ないでしょう。
ハリは小さめ(グレ7号)が
食いがいいけれど、フグの多
いときは小さいハリほどフグ
に切られやすくなります。今
攻めている場所は航程15分ほ
どと近いので、冷凍オキアミ
ブロックはバケツで溶かして
おいて、付けエサのオキアミ
はその中から拾ってください」

と八景沖コマ
セダイのポイ
ントをほぼ説
明してくれた。
港を出ると
船は北へ進ん
だ。福浦の護
岸が見える沖
に船は止まり、
太田一也船長
から投入のア
ナウンスが出
た。「水深は
18メートル、タナは底からハ
リス分が基本で、1〜2メー
トル上げてもいいです。上か
ら取る人は、海面から14メー
トル」とのこと。
浅場といっても、釣り方は
変わらない。コマセカゴが底
に着いたら1メートルほど巻
き上げ、数回にわけてコマセ
を振りながらタナに合わせる。
アタリは置き竿で待つ。2
〜3分待ったら仕掛けを上げ
てコマセを入れ替えるが、エ
サ取りが多いときは仕掛けを
上げる間隔を短くする。
開始してしばらくはマダイ
からのアタリはなく、たまに
フグが釣れ上がるだけ。エサ
取りが多いのでみなまめに仕
掛けを入れ替えている。
2度ほど流し変えをした後、
左の胴の間で食ったようだ。

カメラを持って見に行く、
水深が浅いせいからです。ビシ
が海面まできている。
ハリスをたぐって浮いてき
たのは800グラムほどのきれ
いなマダイ。釣り上げた人はコ
マセダイ2回目とのこと、
うれしそうに笑顔が印象的だ
った。
今までのさかかったフグの



▲ハリ外れでのバラシも多かった

知得! Tips and Tricks
ハリの予備は十分に
八景沖は色いろなフグがいる。この日に
船上で見たのはショウサイフグ、コモンフ
グ、シロサバフグの3種類だった。フグの
活性が高い時間帯にはハリが取られること
がしばしばあった。予備のハリは十分に用
意しておきたい。また、フグに食われたと
ときにはハリスに傷が入ることがある。ま
めにチェックし、ささくれなどの傷が見
つかったらハリスを結び直そう。
▶フグ対策でハリ単体を多
めに用意しておこう

浅場で味わう大ダイの引き 八景沖のコマセダイ最盛期